



アデコ 2012 年度第 3 四半期は堅調さを維持

- コストとプライシングの管理を背景に、高い利益を確保

[2012 年 11 月 6 日 スイス、チューリッヒ]

第 3 四半期ハイライト(前年度比)

- **売上高** 前年同期比で同等の 53 億ユーロ(M&A や為替変動の影響を除き 5%減)
- **粗利率** 前年同期比で 70bps 増の 17.9%(M&A や為替変動の影響を除き 50bps 増)
- **販売管理費** 前年同期比で 2%減(M&A や為替変動の影響と事業再編費用を除く)
- **EBITA 利益** 2 億 3200 万ユーロ(事業再編費用を除く)
- **EBITA 利益率** 事業再編費用を除き前年比で 10bps 増の 4.4%
事業再編費用 2200 万ユーロを計上(内 1900 万ユーロがフランスの再編費用関連)
- **純利益** 18%減の 1 億 1800 万ユーロ
- **営業キャッシュフロー** 2012 年第 3 四半期までの累計で 2 億 8400 万ユーロ (2011 年は、2 億 1700 万ユーロ)

2012 年第 3 四半期の主な数値

単位: 100 万ユーロ	報告数値	報告数値 成長率	為替変動の影響を 除いた成長率
売上高	5,279	0%	-5%
売上総利益	947	4%	-1%
EBITA(事業再編費用を除く、 金利支払い、税引き、営業権償 却前利益)	232	2%	-3%
EBITA(金利支払い、税引き、 営業権償却前利益)	210	-7%	-12%
営業利益	197	-8%	-12%
当期純利益	118	-18%	-

人材サービスのグローバルリーダーであるアデコグループ(本社: スイス)は本日、2012 年度第 3 四半期の決算発表を行いました。売上高は前年同期比で同等、M&A や為替変動の影響を除き 5%減の 53 億ユーロとなりました。粗利率は、前年同期比で 70bps 増、M&A と為替変動の影響を除く利益率は 50bps 増の 17.9%となりました。継続した厳格なコスト管理により、M&A や為替変動の影響を除き、事業再編費用を除いた販売管理費は 2%減となっています。事業再編費用を除く 2012 年第 3 四半期の EBITA 利益率は、前年同期比で 10bps 増の 4.4%となりました。純利益は 18%減の 1 億 1800 万ユーロとなりました。アデコグループは 2012 年の 9 ヶ月間で、2 億 8400 万ユーロの営業キャッシュフローを生み出しました。

以下は CEO、パトリック・デ・メスネールのコメントです。

「今期の決算でも、プライシングの管理が結果に反映されました。M&A と為替変動の影響を除き、粗利率が 50bps 増の 17.9%を達成できたことを嬉しく思います。それと同時にコスト面の管理も行い、M&A や為替変動の影響と事業再編費用を除く販売管理費は前年同期比で 2%減となりました。結果として、EBITA 利益率は、事業再編費用を除き 10bps 増の 4.4%となりました。また、前期に引き続き、地域別に異なる傾向が見られました。フランスでは売上が減少する中、堅調な利益を確保しました。北米では IT 分野の成長が牽引し、M&A や為替変動の影響を除く売上高が 3%増加しました。イギリスは堅調さを維持し、ドイツは市場を上回る業績を達成しました。日本における M&A や為替変動を除く売上は、いくつかの大規模プロジェクトを終了した影響により減少しています。ベネルクスでは市場よりも良好な業績を達成し、ノルディクスも同様です。イタリアとイベリアでは、売上の減少率は下げ止まり感を見せています。再就職支援と能力開発ビジネスを展開するリー・ハクト・ハリソンの売上は、M&A や為替変動の影響を除き 9%増となり、高い収益性を確保しました。先行きが

不透明な中、世界的な基盤と多様なビジネスラインを有していることと共に、プライシングとコスト管理に取り組むことにより、私たちは、中期計画の EBITA 利益率、5.5%を達成できると考えています。」

日本の状況

売上は為替変動の影響を除き 5%減 3 億 7900 万ユーロとなりました。M&A や為替変動の影響を除く売上高は、数件のアウトソーシング案件が終了した影響により 15%減となりましたが、利益は堅調に維持しました。EBITA は 2300 万ユーロ、EBITA 利益率は前年同期比で 60bps 増の 6.1%となりました。買収した VSN は順調に業績を伸ばし、日本全体の 2012 年第 3 四半期の EBITA 利益率を 20bps 上乘せすることに貢献しました。

マネジメントの変更について

現在アデコジャパンの総責任者を務めるマーク・デュレイは、2012 年末をもって退任します。マークは 2002 年から現在まで、アデコジャパンの総責任者として日本のビジネスを成功に導き、利益向上に多大な貢献をしました。取締役会と執行委員会は、マークの功績と、27 年以上にわたるアデコグループへの貢献に感謝の意を表します。

クリストフ・デュシャテリエは、2013 年 1 月 1 日、アジアおよび日本の総責任者として就任します。さらに、アデコグループの経営委員メンバーとしても就任を予定しています。クリストフは 2010 年にアデコに入社する以前はマイケルページで 18 年間勤務し、ヨーロッパ地域のマネージングディレクターとボードメンバーの一員の任にありました。アデコに入社後、フランスで専門性に特化した人材サービス事業の責任者を務め、2012 年初頭にアジア地域の統括責任者として就任しました。

アデコグループが発信したプレスリリース原文は、こちらからご覧ください。

[「Adecco reports solid Q3 2012 results」\(英語\) \(PDF ファイル\)](#)